

三川っ子だより

No.20

公開研修会

2月22日に、近隣の学校を主とする他校の教員が参画し、本校の公開研修会を開催しました。参画者の方々には、事前2週間の体調管理を依頼するとともに、当日、健康管理チェックカードを提出することを条件として参画いただきました。さらに、感染症予防のお願いを提示し、協力を求めました。どの参画者も適切に対応していただき、安全面を十分に配慮した中での公開研修となりました。

授業を参観された方々からは、「子供たちがタブレットやPCを上手に使う様子から積み重ねが分かった」、「理由を付けながら自分の思いを話すことができていた」などの感想をいただきました。

講師としてお招きした國學院大學教授の田村学先生からは、教師がICT機器をどのような場面で、どのように活用していくかを教材研究の中で、きちんと押さえていくことが必要であることを御指導いただきました。また、子供たちはもっと話したがっている、もっと書くことができるというお言葉もいただきました。授業が終わっても、語り続けたり、書き続けたりするような学ぶ意欲にあふれた子供たちの姿が見られるよう、教材研究だけでなく、日々の子供たちの変容を的確に読み取り、さらなる授業改善に取り組んでまいります。

研修会当日、駐車場や交通整理のボランティアをしていただいた保護者の皆様、御協力ありがとうございました。

感染症予防のお願い

- マスク着用、手指消毒の徹底を！
- 児童への接近、話し掛け ✕
- 参画者どうしの私語 ✕
- 教室内の参観は、の位置で
- 各教室の人数制限を超えないように
- 体育館では、終日同じ座席で
- 昼食は体育館で、他参画者と接近 ✕



3月1日（月）に本校のICT活用の様子をテレビ局が取材に来ます。

放映は、3月4日（木）
テレビ静岡「ただいまテレビ」
17：15頃を予定しています。

お楽しみに！

本校では、7つの委員会があり、5・6年生が創意工夫を活かしながら、自分たちの手でよりよい学校になるように活動しています。

2月中旬には、保健委員会が、健康カルタを作り、昼休みに学年ごとにカルタを行いました。どの学年も楽しみながら、健康について大切なことを知ることができました。

図書委員会では、様々なジャンルの本を読んでもらおうと「読書ビンゴ」を企画しています。ビンゴになると手作りのしおりが手渡されます。

また、さわやか委員会が花壇に苗を植え、毎日、欠かさず水やりを行っています。先日の公開研修会では、綺麗に咲いた花々で玄関が飾られ、お客様をお迎えすることができました。

他にも、朝や昼の放送から流れる声がさわやかな放送委員会、一輪車小屋の開閉を忘れずに行う体育委員会の姿、掲示の貼り替えに一工夫している思いやり委員会、三川小のキャラクターをどのように活かしていこうか考えている松の木委員会があります。

2月下旬には、4年生の所属する委員会が決まり、それぞれの委員会で、6年生が優しく教えながら、三川小の良き伝統が引き継がれていきます。



読書ビンゴ (4～6年生) 名前()

◎ 2月8日～3月10日のあいだに読書をした
 ◎ 〇をつけましょう。
 ◎ たて横なめが / 列でもビンゴになったら、昼休みに図書室に持ってきて下さい。

伝説の本	96の	ひみつシリーズ
ぼくらシリーズ	3人の	読書絵本
読者の本	詩・こけき	読んだ本の



令和3年度から令和5年度までの修学旅行の旅行先について

1月26日付けの学校だよりで、標題の件について現3年生から5年生の保護者の皆さんにアンケートをとらせていただきました。子どもたちの学びの充実を願い、様々な課題に目を向けながら丁寧な御回答をいただき、誠にありがとうございました。「広島は、距離等の負担はあるが、本物の平和学習ができるととてもいい機会になる」「本年度の旅行先だった滋賀は、子どもの様子からもよかったと判断した。滞在時間が多くとれてよかった」「県内でもよいのでは」等、様々な御意見をいただきました。

学校では、皆様からいただいた御意見を参考にしつつ、全職員で再度検討をいたしました。まず、コロナ禍であるということ抜きにして、本校の修学旅行の最も大切な目的である「本物(人・物・こと)から学ぶ」ということを主として、子どもたちにどんな経験をさせたいかという規準で検討を進めました。その結果、東京と広島の2つを候補といたしました。どちらにも、特有の価値があり、なかなか判断しづらいというのが本音です。

そこで、現時点では、今後も首都圏についてはコロナウイルス感染症拡大の影響・心配が大きいてあることを考慮し、令和3年度については、比較的感染症拡大のリスクが低いと考えられる広島を候補として計画を進めることとしました。(9月下旬実施予定)ただし、新幹線乗車による感染リスクや国内全体での感染拡大の心配等、今後も状況を把握し続け、広島への実施の可否を随時判断していきたいと考えております。感染状況が改善されず、広島への旅行ができないと判断した場合は、本年度の旅行先であった滋賀を次候補として考えています。また、本年度以上に状況が悪化し、滋賀も適切でないと判断した場合は、県内も含め再度候補地を考えてまいります。

令和4年度以降については、感染症拡大状況を考慮しつつ、令和3年度の実施経験を踏

まえ再度協議していく予定です。どうぞ御理解の程、よろしくお願いいたします。

教頭(川島) 48-6197